

去る2月25日(土)に住吉総合福祉センターにて、ライフサポート協会の「実践報告会」が開催されました。法人職員以外にも他法人からも含めて60名ほどの参加がありました。高齢部門・障がい部門・地域福祉実践の3つの報告に対し、それぞれ質疑～助言という形で進行し、学びの機会となりました。

【高齢部門（なごみケアプランセンター）報告】

なごみケアプランセンターのケアマネジャーからは住み慣れた家での暮らしの継続を求める独居になったお年寄りの事例を報告致しました。

実際にはお風呂に入れていなかったり、話し相手がいない状況でしたが、「不自由に感じていない」とのこと。支援者としては「ご本人の思い」を大切にしながら「家で暮らしたい」ことをどう実現するか?ていねいな関わりを続けていきたいというものでした。

【障がい部門（みんなのマーケットるびなす）報告】

泉北ニュータウンの高齢化と経営環境の変化で行き詰まった地域のスーパーマーケットの再興を目的にした事業の報告を致しました。

ニュータウン外縁部に大型のショッピングセンターが作られて、ニュータウン内の小規模スーパーが営業継続できなくなったにもかかわらず、ニュータウン住民の高齢化で買い物難民の懸念があったため、障がい者就労支援事業とあわせた形でのスーパーの再興のプロジェクトです。このような状況なので売上の向上なども困難ではありましたが、さまざまなイベントの設定や、月1回開催する「子ども食堂」に近隣の高齢者がボランティアとして参加いただけるなど、制度の枠を超えた広がりが少しずつ見えてきました。

【地域福祉部門（住吉区北地域包括支援センター）報告】

地域から孤立した方への様々な機関や近隣住民さんとともに支援をおこない、自宅を片付け、医療につなぎ、再び在宅生活を立て直したケースの報告を致しました。

包括支援センターの「役割」と「機能」と課題の整理については、有意義な問題提起もされました。

